

東宝見聞録

平成24年(2012年)も10日を残すのみとなりました。皆さんにとっては、どのような一年だったでしょうか。金環日食のほか、ロンドン五輪での日本人選手の活躍や、東京スカイツリーの開業、山中伸弥教授のノーベル賞受賞などで「多くの金字塔が打ち立てられた」年でした。12月12日に日本漢字能力検定協会が発表した今年の漢字は、「金」という字でした。今年を振り返り、新しい年に向けての目標を決め、精一杯努力を重ねて、皆さんの中にも是非、金字塔を打ち立ててください。冬休みの課題にも積極的に取り組むことをお忘れなく。では、良いお年を！！



教頭 新山 剛

私は、1998年～2000年の約2年間アメリカの現地校で日本語教師としてアメリカ人の子供達に日本語・日本文化を教える機会に恵まれた。勤務校はジョージア州アトランタ郊外にある公立のミッドベール小学校(幼稚園併設)。

教職員は、約50人で、私以外は全てアメリカ人だった。

生徒の人種の割合は、黒人:白人:その他(ヒスパニック系・アジア系)=5:4:1で、授業は、幼稚園年少組～6年生まで8学年、全23クラス約550人に日本語・日本文化を教えた。一週間の授業数は23時間であった。

アメリカでの生活は、日本にいては決して体験できないようなことを公私にわたり体験させてもらった。本当にありがたい2年間だった。3点挙げると、

- ① アメリカの現地校に赴任して、生のアメリカの教育制度やカリキュラムなどを学べたこと。
- ② 勤務校では、私以外の全職員がアメリカ人だったことから、私の言動を通して、「日本人とはこういう人だ」と考えられることもありえたので、自分の日本人としてのアイデンティティを高め後ろ姿で勝負しようと努めたこと。
- ③ アメリカ人のユーモア・ウィットのすばらしさ・人情味に触れられたこと。「笑顔の挨拶、誠意、感謝の心」はイン

ターナショナルだと確信した。ただし、謙虚さは日本だけの美德だと感じた。

アメリカに渡って、アメリカ人に日本語を教えるという TJFL: Teaching Japanese as a Foreign Language の毎日 は、日本で英語を外国語として教える TEFL: Teaching English as a Foreign Language の授業で、それまで気づかなかったような良いヒントを得ることが多くあり、ありがたかった。

私が教えていた生徒達は、幼稚園児や小学生と年齢的にはかなり若かったが、将来日本語を専攻したり、JETプログラム等でALTとして日本を訪れるような「日本や日本語が好きでたまらない。」というような生徒をひとりでも多く育てたいといつも思いそのきっかけとなる授業をめざした2年間だった。

その日々は、悪戦苦闘・試行錯誤の連続であったが「アメリカも日本も教育は愛情だ。」「教えることは教わることだ。」を再認識した2年間でもあ

った。Georgia on my mind... では、皆さん良いお年を！



日本文化紹介パネル 校長、教頭と私



小3のクラスで「折紙」の授業

日	曜	今後の予定
22	土	
23	日	天皇誕生日
24	月	振替休日
25	火	冬季課外開始(3年),特別指導(1年)
26	水	特別指導(2年)
27	木	特別指導(3年)
28	金	冬季課外終了(3年)
12/29~1/3		学校は完全閉庁(日直代行も不在)
1/4	金	冬期課外開始(3年),仕事始め
5	土	
6	日	
7	月	職員会議, 学年会
8	火	始業式・統一LHR(進路希望調査),第3回課題考査(1・2年),安全の日,服装・頭髪検査(全学年)
9	水	3学期朝課外開始(3年),第3回課題考査(1・2年)